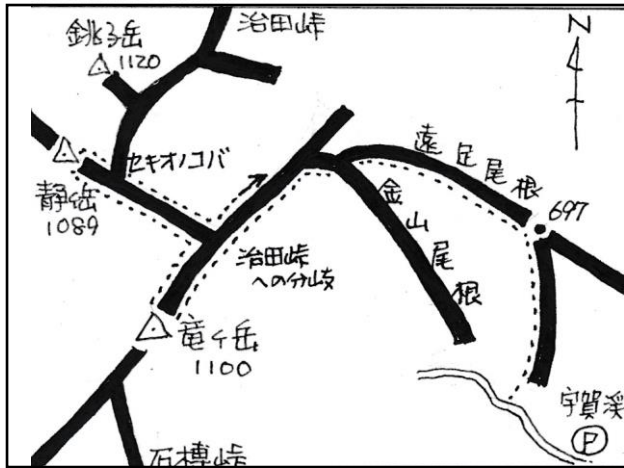


2020年6月23日 竜ヶ岳(1099.6m)・静ガ岳(1086m)

シカ牧場？ ひとが入らないと…



【記録】6:15 登山口～4:03 岩峰～7:18 遠足尾根分岐。休憩。7:24 発～7:37 大鉢山分岐～7:50 樹林抜ける 8:22 ホタガ谷分岐～8:35 金山尾根分岐。休憩。8:38 発～8:44 治田峠分岐～9:03 竜ヶ岳山頂。休憩。9:13 発～9:25 治田峠分岐～9:57 セキオノコバ～10:15 静ヶ岳山頂。休憩。10:20 発～10:32 セキオノコバ～11:11 竜ヶ岳分岐～11:19 金山尾根分岐。休憩。11:23 発～11:54 大鉢山分岐～12:08 登山口への分岐～12:17 岩峰～12:55 登山口～13:10 ㊦

宇賀溪の駐車場から林道を15分余り、登山口から植林帯を登り、697mのピークに出る。この分岐からは灌木の間の緩やかな尾根の登りになる。

大鉢山への分岐を過ぎて樹林の間から広々とした尾根に出ると、青空がだんだんと広がって、明るい初夏の日差しは暑いくらいだ。丈の低いササに覆われた起伏はホタガ谷の分岐から急な傾斜で金山尾根分岐の小さなピークへせりあがって、その向こうに竜ヶ岳の山頂が一段高く見えている。小さなピーク直下の斜面を、先ほど追い越していった二人パーティーが登っていくのが見える。

金山尾根の分岐に立ち、竜ヶ岳の山頂を前に見ながらしばらく歩くと、治田峠方面への分岐である。分岐を過ぎると、道は緩やかなカーブを描いて山頂へ登っていく。大きく開けた左側の山腹斜面は、深緑のササ原だが、その斜面のいたるところにシカが遊んでいる様子はさながらシカの牧場である。昨年だったか、同じようにこの斜面に群れていた数に驚いたものだが、今回はその比ではない。道をはさんだ反対側の斜面にも群れが遊んでいる。食害が進むはずである。このコロナ禍による数カ月は、外敵のいない静かな竜ヶ岳の斜面は彼らの天国だったのだろう。人が入らないとこうなるのかな、と思いつつ山頂に向かった。

竜ヶ岳山頂は無風、乾いた空気が心地よい。青空は広がって、遠望はないが周囲の眺望はくっきりである。来た方を振り返ると、御池岳、鉢子ヶ岳、静ガ岳、藤原岳、その向こうに四日市市街と伊勢湾が鈍く光っている。

下りは速い。10分そこそこで治田峠の分岐。ここから治田峠に向かう道に入る。

下り基調の山腹を巻くような道からやがて、広い尾根上の踏み跡になり、「縦走路」と書か

れた標識や、大井谷が西から出合う鞍部には「←竜ヶ岳」「治田峠→」の小さな標識が並んで立っている。古くからよく踏まれた道で、竜ヶ岳山頂周辺の何も遮るもののない草原状の道からこの樹下の道に入ると、木陰が心地よく、ホッとする。

ところどころに、東近江市遭対協と治田財産区の「登山案内板」が立っていて、現在地点の番号と名称が地図の中に示されている。

左側の樹間に水をたたえた池を見ながら進むと、開けた分岐点に出る。セキオノコバで、右へとれば静ヶ岳を踏まずに銚子岳へ向かう道、左手は静ヶ岳方面へ向かう道だ。左をとる。

下ってくる単独の登山者と出会った。青川峡から登って来て銚子岳を踏んで下るところだという。この辺りは、最近では周回コースとして人気があるようだ。更に登っていくと左手に池がある。褐色の水だが量は多い。右側にも池があつて、樹間から覗く青空を写してなかなか美しい。左右の池の間を登っていくと、尾根上につけられた踏み跡に出、樹間を透かして見える空を目指して登ると、静ヶ岳の標識と三角点のある小さな広場のような山頂に出る。山頂からは竜ヶ岳の北面が迫って見える。山腹が立っていて、いつも見ている竜ヶ岳とはまた違う表情である。

一息入れて、下山に移る。池を通過し、セキオノコバ、大井谷と出合う鞍部を過ぎ、竜ヶ岳の分岐に戻った。ここからは、朝登って来た遠足尾根を下る。午後1時10分、宇賀溪に下ってきた。出会った登山者は3パーティー5人だけだったが、駐車場の半分近くは車で埋まっていた。

(洞井孝雄)